

2011年8月31日

ブライダル総研 結婚総合意識調査2011

～震災後の結婚生活意識～

- ✓ 結婚によって「家族の絆が得られる」が8割超で既婚者(※1)の結婚生活意識でトップ。
 - ✓ “結婚をあらわす漢字ランキング”1位は『絆』。
 - ✓ 既婚者は未婚者よりも、結婚したら「子育てに苦労する」と思っていない。
- ✓ 「こんな時だからこそ、家族の絆や周囲とのつながりがより大切」結婚式列席者の85%。

※1 2010年4月～2011年3月に結婚し現在配偶者のいる者

株式会社リクルート(本社:東京都千代田区 代表取締役社長 兼 CEO: 柏木 齊)が運営するブライダル総研では、結婚トレンドを予測するための基礎資料として、20代から40代の既婚者と未婚者および60代までの結婚式列席経験者計3588人を対象に、結婚に対する価値観をとらえる『結婚総合意識調査』を一部地域を除き全国で実施いたしました。ここに調査結果の要旨をご報告させていただきます。(リクルート ブライダル総研 鈴木直樹)

【調査トピック】

<未婚者と既婚者の結婚生活意識の違い>

P3 ◆結婚によって「家族の絆が得られる」が震災後に尋ねた既婚者の結婚生活意識のトップ

結婚生活意識を示す17項目について、「結婚して、生活がどう変わると思うか?または変わったか?」を未婚者と既婚者それぞれに尋ねたところ、既婚者では「家族としての絆が得られる」で「そう思う」割合が17項目中最も高く、男性が80.5%、女性が88.0%だった。

◆未婚者と既婚者でギャップがある結婚生活意識。ネガティブイメージが強い未婚者とポジティブな既婚者

- ①未婚者と既婚者の結婚生活意識の最大の違いは、「(結婚したら)子育てに苦労する」で、男女とも未婚者が既婚者を大きく上回り、男性では30.5ポイント、女性では33.4ポイント差となった。
- ②男性では「生活が便利になる」(20.7ポイント差)、「仕事に打ち込める」(17.5ポイント差)で既婚者が未婚者を上回り、「親戚づきあいなどが増えて面倒だ」(19.2ポイント差)は未婚者が既婚者を上回った。
- ③女性では「自由な時間が増える」(20.4ポイント差)で既婚者が未婚者を上回り、「相手の親の面倒をみなくてはならない」(21.8ポイント差)、「親戚づきあいなどが増えて面倒だ」(20.3ポイント差)で未婚者が既婚者を上回った。

<「結婚」をあらわす漢字>

P4 ◆未婚者・既婚者ともに、結婚をあらわす漢字の1位は「絆」、2位は「幸」、3位は既婚者が「安心」、未婚者が「愛」

結婚をあらわす漢字(1～2文字)を純粹想起で回答してもらったところ、既婚者・未婚者ともに1位が『絆』(既婚=193票、未婚=151票)、2位が『幸』(既婚=119票、未婚=74票)だった。3位は既婚者が『安心』(59票)、未婚者が『愛』(70票)となり、「夫婦や家族のつながり」に対する意識の違いがみられた。

<震災後の結婚式招待客の意識>

P5 ◆震災後も結婚するカップルを応援したい招待客は8割以上。強い“絆”意識を再確認

震災から約2ヶ月経過した時点で、この時期に予定されている結婚式の実施や列席意向について、招待される側の考えを尋ねたところ、“このような時期だからこそ、結婚式を肯定的にとらえる祝福意識”が強いことがわかった。

- ①「震災を考慮し結婚式を控えるべきか」・・・「そう思わない」は81.4%
- ②「近いカップルから結婚式に招待されたら、喜んで出席する」・・・「そう思う」は86.9%
- ③「こんな時だからこそ、家族の絆や周囲とのつながりがより大切」・・・「そう思う」は84.8%

◆出版・印刷物へデータを転載する際には、“結婚総合意識調査2011 リクルートブライダル総研調べ”と明記いただけますようお願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ先】

https://www.recruit.jp/form/inquiry_press.php

調査概要と回答者のプロフィール

【調査概要】

未婚者編

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

【調査期間】 2011年4月14日(木)～4月23日(土)

【調査対象】 「今現在、結婚していない(結婚はしたことがない)」20～40代の男女 ※ただし、「婚約中」と回答した人を除く

【集計サンプル数】 計1392人

「総務省統計局 平成17年国勢調査 第1次基本集計結果の年代別未婚者数」を基に全国を18エリア毎の性別、年代別割合に近くなるようにサンプル数を割り付けた。

既婚者編

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

【調査期間】 2011年4月9日(土)～4月25日(月)

【調査対象】 「2010年4月～2011年3月に結婚した」20～40代の男女

【集計サンプル数】 計1396人

「厚生労働省 人口動態統計の平成21年度婚姻件数」を基に全国を18エリア毎の婚姻件数比率に近くなるようにサンプル数を割り付けた。

(注)①本調査における「既婚者」「未婚者」は、以下のように定義させていただきます。
 「既婚者」=2010年4月～2011年3月に結婚し現在配偶者のいる者(有配偶者)
 「未婚者」=結婚経験がなく、なおかつ現在配偶者のいない者(無配偶者)

②下記のエリアについては、調査実施対象外としました。
 青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の一部

招待客編

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

【調査期間】 2011年5月14日(土)～5月22日(日)

【調査対象】 「1年以内に結婚式に招待客として出席した」20歳以上の男女

【集計サンプル数】 計800人

予備調査では、「総務省統計局 平成17年国勢調査」を基に性年代別の人口構成に合わせて調査票を配信し、本調査の条件該当者(1年以内に結婚式に招待客として出席した人)の性年代別の構成比率を算出。本調査では、上記の構成比率によりサンプル数を割り付けた。

【回答者のプロフィール】

合計	都道府県																		
	北海道	秋田、山形	山梨	埼玉	千葉	東京	神奈川	栃木、群馬	新潟、富山、石川、福井、長野、静岡	愛知	岐阜、三重	大阪	兵庫	滋賀、京都、奈良、和歌山	鳥取、島根、岡山、広島、山口	徳島、香川、愛媛、高知	福岡	佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	

■未婚男性

20代	442	19	7	3	29	25	62	39	14	38	30	13	34	19	25	25	12	20	28
30代	248	10	4	2	18	14	37	24	8	22	17	7	19	10	12	13	7	9	15
40代	105	5	2	1	7	6	15	10	4	10	6	3	7	4	4	6	3	4	8
全体	795	34	13	6	54	45	114	73	26	70	53	23	60	33	41	44	22	33	51

■未婚女性

20代	382	17	6	3	24	20	52	30	11	31	24	12	31	18	23	22	11	19	28
30代	160	8	2	1	10	8	26	13	4	13	9	4	14	8	8	9	5	7	11
40代	55	3	1	0	3	2	9	4	1	4	3	1	5	3	3	3	2	3	5
全体	597	28	9	4	37	30	87	47	16	48	36	17	50	29	34	34	18	29	44

■既婚男性

20～40代	698	30	10	4	42	38	96	58	22	61	49	21	55	32	35	41	20	31	53
--------	-----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

■既婚女性

20～40代	698	30	10	4	42	38	96	58	22	61	49	21	55	32	35	41	20	31	53
--------	-----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

■1年以内に結婚式に招待客として出席した人

	合計	20代	30代	40代	50代	60歳以上
男性	409	105	112	41	60	91
女性	391	113	92	27	54	105
全体	800	218	204	68	114	196

未婚者と既婚者の結婚生活意識の違い

●「結婚によって家族の絆が得られる」～既婚の男性・女性でトップ。

「結婚して、生活がどう変わると思うか？または変わったか？」を以下の17項目について、未婚者と既婚者それぞれに尋ね「そう思う」(※1)と回答した割合を比較した。既婚者で「そう思う」割合が最も高かったのは「家族としての絆が得られる」で男性が80.5%、女性が88.0%だった。未婚者では、男性が「好きな人と一緒にいられてうれしい」(73.2%)、女性が「家族としての絆が得られる」(81.9%)だった。

※1 「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合。

●未婚者と既婚者でギャップがある結婚生活意識～ネガティブイメージを抱きやすい未婚者とポジティブな既婚者。

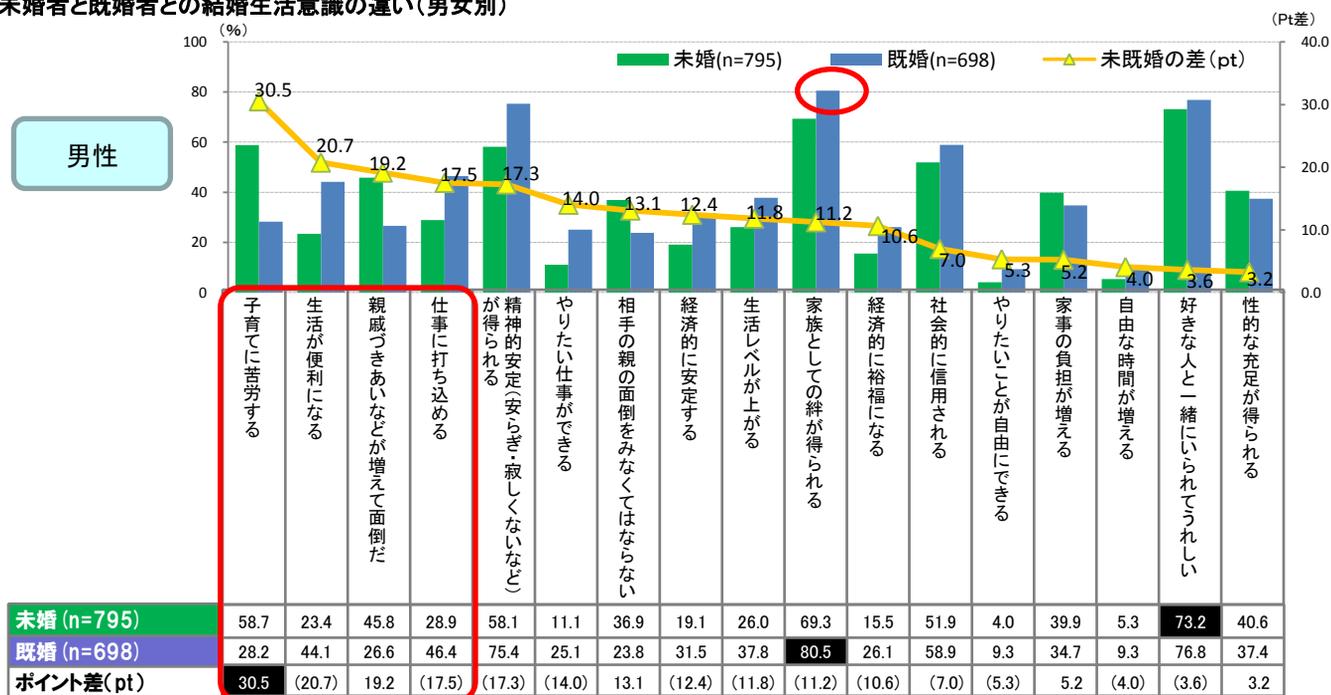
◇未婚者・既婚者で最もギャップが大きい結婚生活意識は「(結婚したら)子育てに苦労する」

結婚生活意識について「そう思う」割合を未婚・既婚別に比較すると、「子育てに苦労する」が男性では30.5ポイント差、女性では33.4ポイント差となり、いずれも未婚者の方が「そう思う」割合が高く既婚者を大きく上回った。

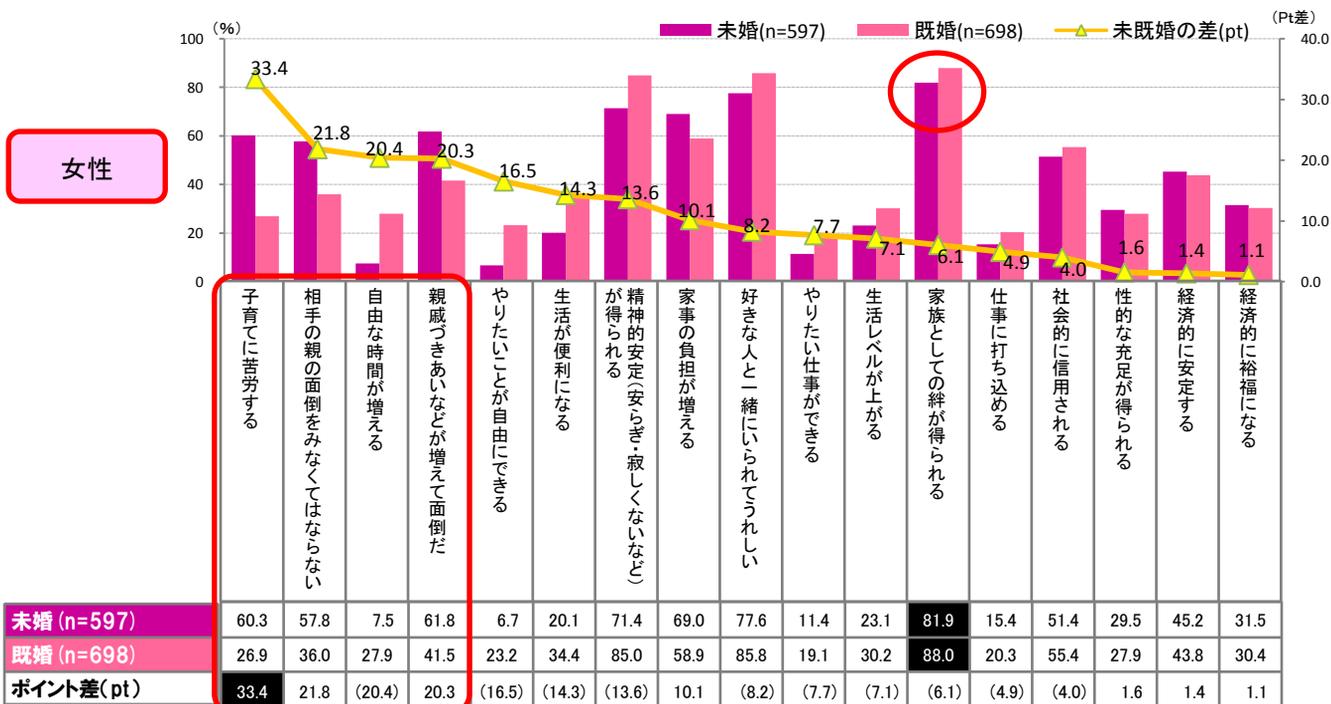
◇男性の結婚生活意識を未婚・既婚別で比較すると、「生活が便利になる」で20.7ポイント既婚者が上回り、一方「親戚づきあいなどが増えて面倒だ」では19.2ポイント既婚者が下回った。

◇女性の結婚生活意識を未婚・既婚別で比較すると、「相手の親の面倒をみなくてはならない」で21.8ポイント既婚者が下回り、一方「自由な時間が増える」では20.4ポイント既婚者が上回った。「親戚づきあいなどが増えて面倒だ」では20.3ポイント既婚者が下回った。

■未婚者と既婚者との結婚生活意識の違い(男女別)



白抜き数字はそれぞれの最大値。差の()内数値は既婚者が未婚者を上回る。



白抜き数字はそれぞれの最大値。差の()内数値は既婚者が未婚者を上回る。

結婚をあらわす漢字は、未婚者・既婚者ともに1位が「絆」、2位は「幸」。続いて3位は既婚者が「安心」、未婚者が「愛」。

◇結婚をあらわす漢字(1~2文字)を純粹想起で回答してもらったところ、既婚者・未婚者ともに1位が『絆』(既婚=193票、未婚=151票)、2位が『幸』(既婚=119票、未婚=74票)だった。3位は既婚者が『安心』(59票)、未婚者が『愛』(70票)となり、未婚者と既婚者で夫婦や家族のつながり意識に違いがみられた。未婚者が夫婦関係を恋愛的にとらえる傾向が比較的強い一方で、既婚者は実生活の共同者にとらえ夫婦間の協力関係をより強く意識していると思われる。

◇また、既婚者で49位(4票)の『束縛』が未婚者では7位(33票)となり、8位の『安心』(31票)を上回った。

■『結婚』をあらわす漢字／未既婚別

【質問】あなたにとって、『結婚』とは何ですか。漢字1文字または2文字でお答えください。(自由記述)

既婚者回答 (n=1396)			未婚者回答 (n=1392)		
順位	漢字	票数	順位	漢字	票数
1	絆	193	1	絆	151
2	幸	119	2	幸	74
3	安心	59	3	愛	70
4	信頼	56	4	信頼	48
5	家族	53	5	家族	38
6	愛	49	6	安定	37
7	幸福	43	7	束縛 (既婚者49位／4票)	33
8	生活 (未婚者21位／12票)	42	8	安心	31
9	安定	34	8	縁 (既婚者12位／24票)	31
10	忍耐 (未婚者11位／25票)	33	10	幸福	29

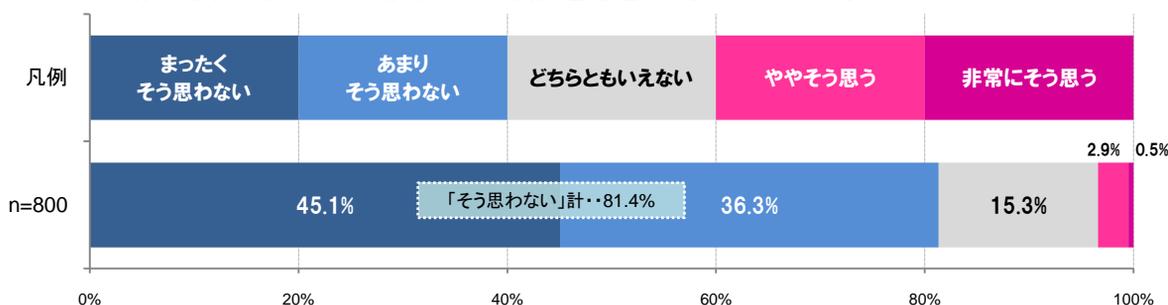
※注 漢字の順位づけは、同義語などを寄せ集めせず完全一致した文字をカウントして算出した。

震災後も結婚するカップルを応援したい招待客(※1)は8割以上。強い“絆”意識を再確認。

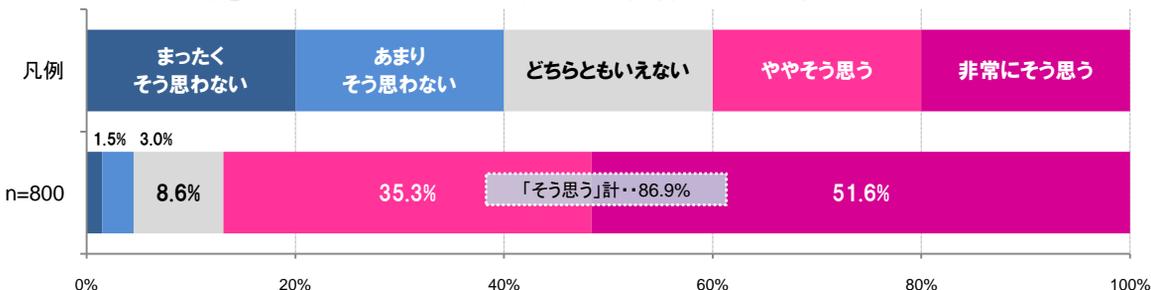
震災後のこの時期(※2)に予定されている結婚式について、招待される側の意見を聞いたところ、以下のような回答を得た。

- ◇震災を考慮し控えるべきか質問したところ、「**そう思う**」(非常にそう思う「ややそう思う」の合計)は**わずか**に**3.4%**だった。一方、「**そう思わない**」(まったくそう思わない「あまりそう思わない」の合計)は**81.4%**となり、結婚式を実施すべきという声が大きく上回った。
- ◇結婚式に招待されたら喜んで出席するかどうかを質問したところ、「**そう思う**」が**86.9%**となり、積極的に列席したい気持ちが強いことがわかった。
- ◇こんな時だからこそ、家族の絆や周囲とのつながりがより大切だ、とする回答も「**そう思う**」が**84.8%**と大変高く、震災によって“絆”や“つながり”に対する意識が高まっていると言えそうだ。

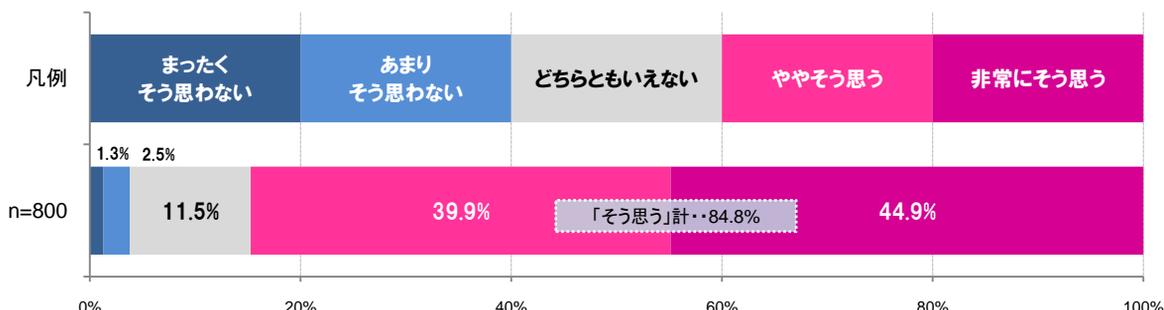
①【結婚式の自粛に対する意見】 Q.結婚式は、震災を考慮して控えるべきだ。



②【結婚式への列席意欲】 Q.近いカップルから結婚式に招待されたら、喜んで出席する。



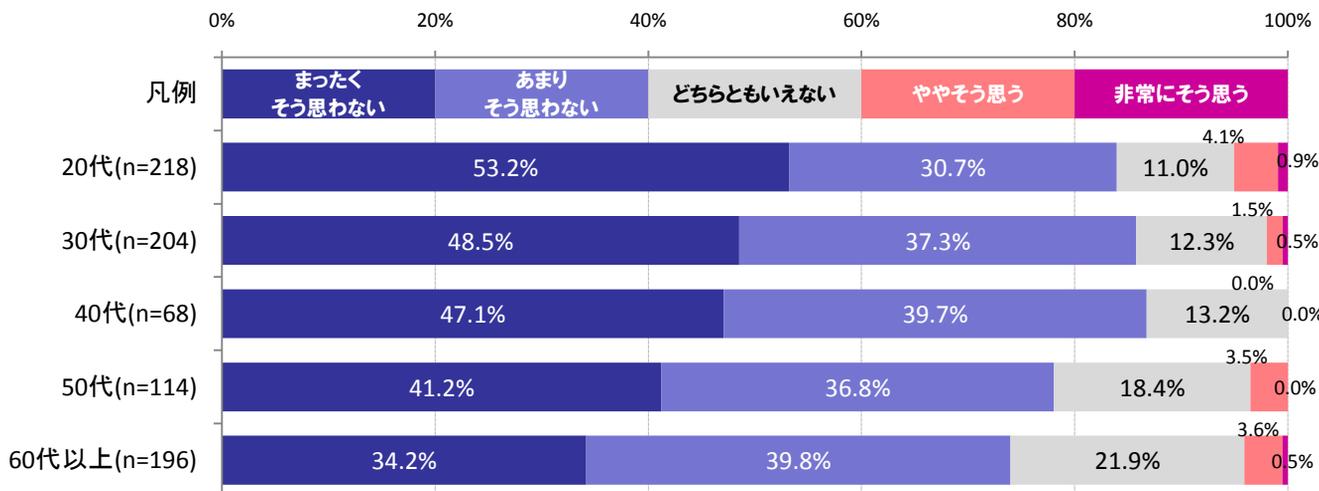
③【招待客の絆意識】 Q.こんな時だからこそ、家族の絆や周囲とのつながりがより大切だ。



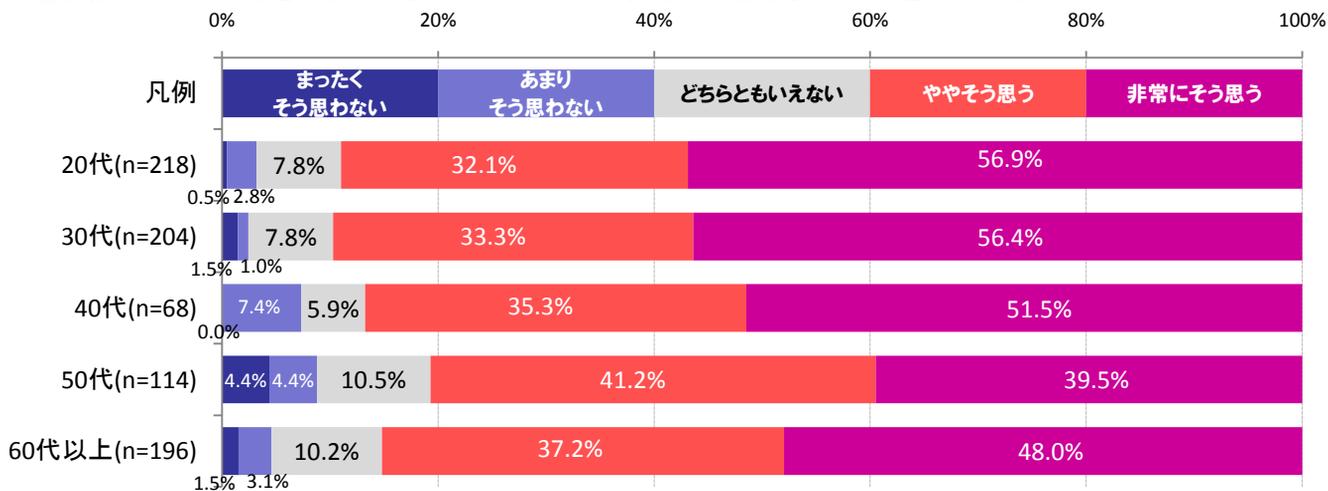
※1・・・過去1年以内に結婚式に招待客として出席した人
 ※2・・・調査を実施した2011年5月から数カ月先を想定し回答

参考データ(年代別)

①【結婚式の自粛に対する意見】 Q.結婚式は、震災を考慮して控えるべきだ。



②【結婚式への列席意欲】 Q.近いカップルから結婚式に招待されたら、喜んで出席する。



③【招待客の絆意識】 Q.こんな時だからこそ、家族の絆や周囲とのつながりがより大切だ。

